



▲高潮で浸水した高松市内  
(高松市松島町国道11号)



高潮で浸水した高松市内  
(高松市松島町)▶

## 背景

平成16年(2004)8月の台風16号では、激しい雨と大潮の満潮が重なり、記録的な高潮が香川県沿岸の各地を襲い、住宅などの建物は浸水被害に見舞われました。高松港では観測史上最高の2.46mの潮位を記録するなど、県内各地で最高潮位を更新しました。この結果、高松市を中心に、床上・床下浸水が約22,000戸と戦後最大となりました。

この災害で、多くの方が高松市など瀬戸内海沿岸部の土地が高潮に弱い大地であることを認識し防災を考えるきっかけになりました。

## アクセス 浸水現場(旧四国地方整備局前)

- JR高松駅より東南東へ直線距離約2km
- 高松市福岡町4-26-32
- 緯度経度 北緯34度20分28秒, 東経134度04分03秒



平成一六年(二〇〇四)は古来稀にみる年で、台風が日本に一〇個、四国には六個も上陸し、瀬戸内海側の香川県、愛媛県でも大きな被害を受けました。中でも台風一六号の際には、香川県においては台風通過が大潮の満潮時刻と重なったため、これまで記録されていた最高潮位を五〇センチメートルを超える未曾有の高潮が発生し、高松の中心街など約二万二、〇〇〇戸が浸水しました。その時、消防署員として救出活動に携わった人の証言です。

台風一六号では警報発令後、日新小学校区へ急行しました。その時の光景は忘れられません。「なぜこんなことが」と思うほど壮絶で、道路を水が流れる中、現状確認に行こうとするのですが、手すりにつかまっても足元がすくわれて押し戻される状態でした。各家庭を回って小さなお子さんやお年寄りを抱えて安全なところまで誘導するにも深夜で何も見えず、危険でした。一軒一軒確認しながら取り残された人たちの救助するのは、とにかく時間がかかります。消防では太刀打ちできない災害があることを実感しました。

大災害になればなるほど被害は甚大で、すぐに救助に向かえない場合もあります。どの家に取り残されている人がいるという情報があるかないかで、救助までのスピードが違います。被害を最小限に抑えるために、また二次三次の被害を招かないために、地域と連携をとっていかねばと痛感しました。